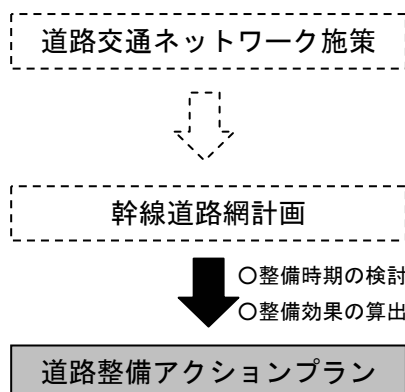


IV. 道路整備アクションプラン

Ⅲ.幹線道路網計画で検討した整備計画について、その実施目標時期を定める実行計画（道路整備アクションプラン）を検討します。

また、本交通計画マスタープランの実現により、期待される整備効果を試算します。

またその実現に向けて登米市の取り組み方針について検討します。



1.道路整備アクションプランの概要

項目	内容
道路整備アクションプランの位置づけ	○都市交通計画マスタープランで示された幹線道路網の実現に向けて、その実施目標時期を定める実行計画です。 ※5～10年度毎のローリングにより、事業時期や内容を適宜見直します。
計画期間	○平成20年度から概ね20年間 各事業の実施時期については、事業の進捗状況などを踏まえ、以下の3区分に段階的に分類します。 短期：概ね5年以内（～平成24年度）に完了するもの 中期：概ね5～10年以内（～平成29年度）に完了又は着手を目指すもの 長期：概ね10～20年以内（～平成39年度）に完了又は着手を目指すもの（そのため短・中期において計画検討に着手します）
対象道路	○登米市内の幹線的機能を有する道路 ・国道 ・県道 ・主な1級市道 ・主な広域農道

2.道路整備アクションプラン

段階区分（整備時期）とその整備展開の考え方は以下の通りです。

1) 短期（～平成24年度）

- ・「現在進められている事業」、「既定計画に位置付けられている事業」を優先して推進します。
- ・広域交通体系の利便向上に大きな役割を果たすことが期待される「三陸縦貫自動車道」の開通による整備効果を全市的に波及させるため、三陸縦貫自動車道へのアクセス道路の整備については、開通時期に合わせて、優先的に整備を推進します。
- ・「中心市街地環状道路」は、迫地域の交通渋滞解消だけでなく、中心市街地の道路空間再構成の実現に向けた道路基盤となります。その将来の整備実現に向けて、道路構造、路線線形、概算事業費等の計画検討及び都市計画決定手続きの準備・着手を目指します。

2) 中期（～平成29年度）

- ・短期事業の推進状況を踏まえ、「既存の幹線的な道路の機能向上に向けた事業」を鋭意推進します。
- ・広域交通体系の充実や市内地域間ネットワークの強化等に大きな役割を果たす「みやぎ県北高速幹線道路 第Ⅱ期（舟橋～日野渡）」の早期整備の実現を、事業主体となる宮城県に要請します。
- ・「中心市街地環状道路」は、計画検討や都市計画決定手続きの進捗を踏まえ、事業主体・事業手法の検討等、実現化に向けた準備（可能な範囲での早期着手）を目指します。
- ・登米地域のリダンダンシー確保とともに、歩行者ネットワーク実現に向けた道路基盤となる「登米地域市街地バイパス」は、既存橋梁の改修状況、護岸改修事業の進捗、広域交通の充実に伴う登米地域内の自動車流動の変化等を勘案しつつ、その必要性や整備時期、道路構造、路線線形等の計画検討を推進します。
- ・中心市街地環状道路・登米地域市街地バイパス等の計画熟度の進展、まちづくり事業の進展等に合わせ、迫地域佐沼地区や登米地域寺池地区における「歩行者ネットワーク整備」の計画検討を推進します。

3) 長期（～平成39年度）

- ・既存の幹線的な道路の改良を中心とする整備事業が概ね終了し、幹線的な道路が求められる役割・機能を充足することにより、利便性・安全性の高い道路ネットワークを実現します。
- ・短期・中期事業の進捗状況、社会情勢の変化、まちづくり事業の進展等を踏まえ、必要に応じて実施事業を追加していきます。
- ・「みやぎ県北高速幹線道路」については、全線開通の実現に向けて、第Ⅱ期以降の早期整備を、事業主体となる宮城県に要請します。
- ・「中心市街地環状道路」・「登米地域市街地バイパス」は、短・中期の取り組み状況を踏まえ、整備着手・早期の開通に向けて事業推進を図ります。
- ・中心市街地周辺の道路基盤の整備進捗状況を踏まえ、迫地域佐沼地区や登米地域寺池地区における「歩行者ネットワーク整備」の実現を推進します。

3.期待される整備効果

※算出方法についてはP36を参照

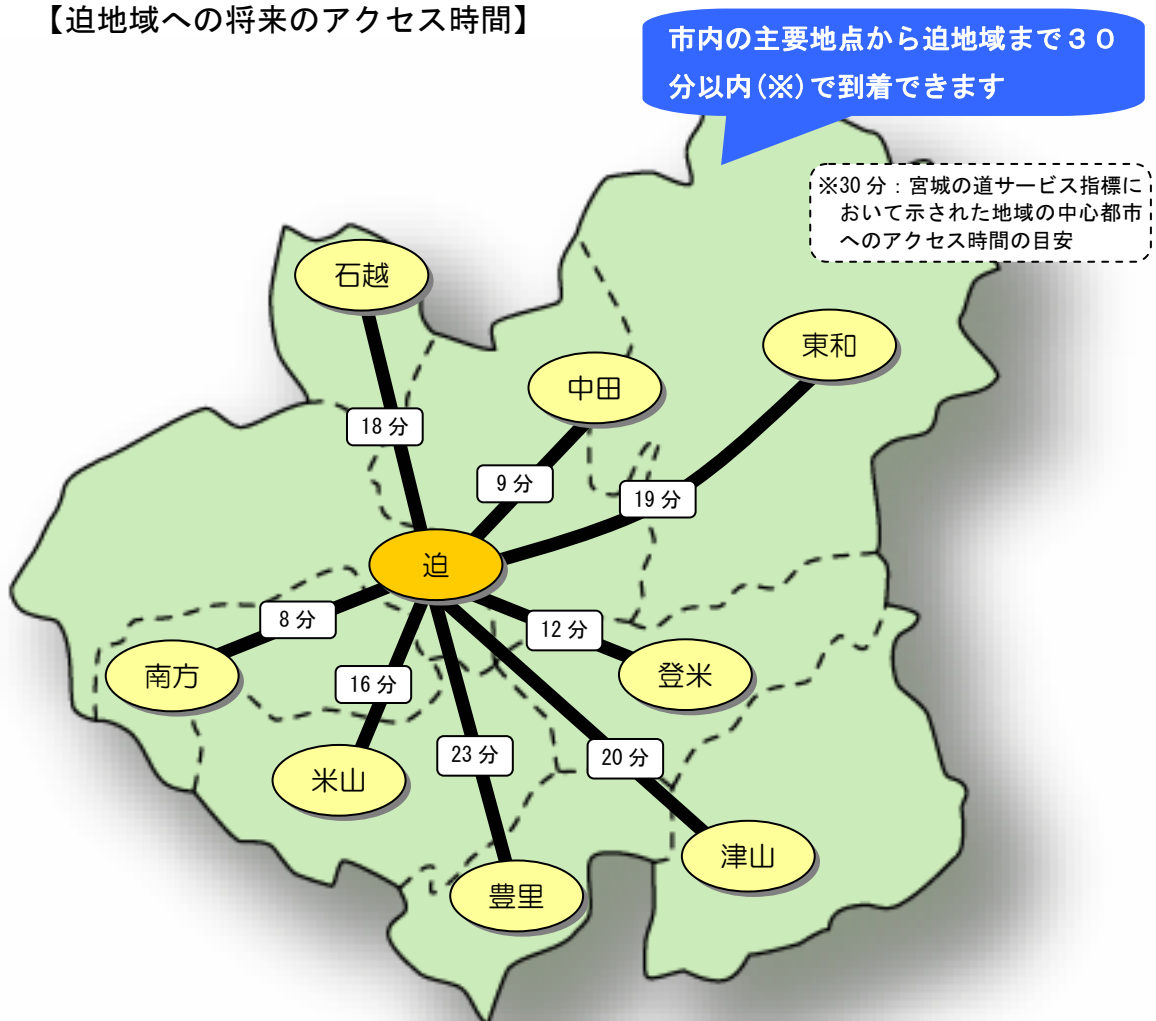
道路整備アクションプランの実現により、期待される整備効果を以下に示します。

整備効果 市民の日常生活の利便性向上

○迫地域を中心とした利便性の高いクラスター都市の実現

- ・各地域から迫地域へ向かう道路などの整備により、迫地域へのアクセス性・近接性が向上し、より利便性の高いクラスター都市が実現します。

【迫地域への将来のアクセス時間】



○高規格道路 IC へのアクセス向上

- ・三陸縦貫自動車道の延伸やみやぎ県北高速幹線道路の整備により、全市的にアクセス時間が短縮され、高規格道路 IC まで 40 分以内のアクセスが可能になります。

【高規格道路 IC へのアクセス時間】

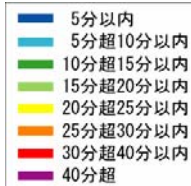
40 分以上(※)を要するエリア

※40 分：宮城の道サービス指
標において示された高速 IC
へのアクセス時間の目安

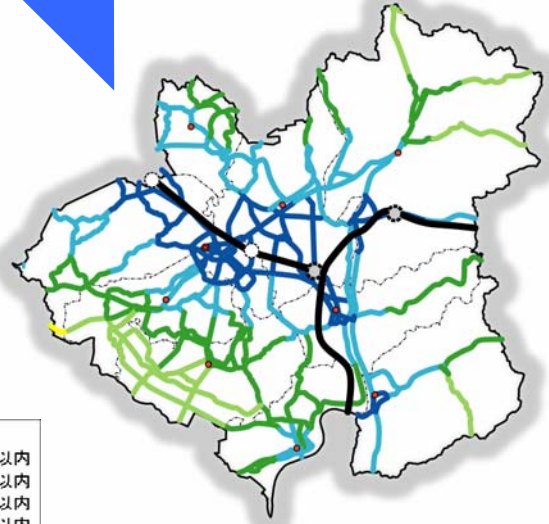


平均アクセス時間：31分

【現況】



市全域から高規格道路 IC まで 20 分
以内のアクセスが可能になります



平均アクセス時間：7分

【将来】

平均アクセス時間は
24分短縮

※みやぎ県北高速幹線道路は構想段階です。
I.Cは、本市のマスタープランを策定する
うえで想定した位置です。

整備効果 安全・安心な日常生活の実現

○歩行者・自転車の安全性向上

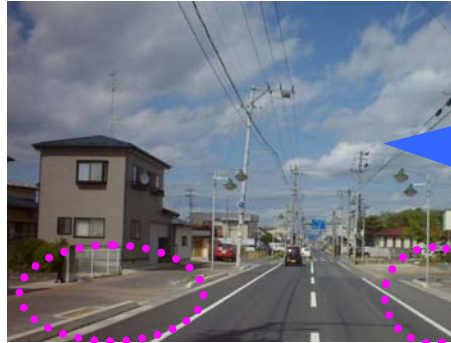
- ・歩道や広幅員の路肩の整備により、歩行者や自転車の安全が確保されるとともに、自動車の走行性も改善されます。

■整備事例) 迫地域と中田地域、東和地域を結ぶ国道 346 号的場の拡幅、歩道設置事業

【整備前】



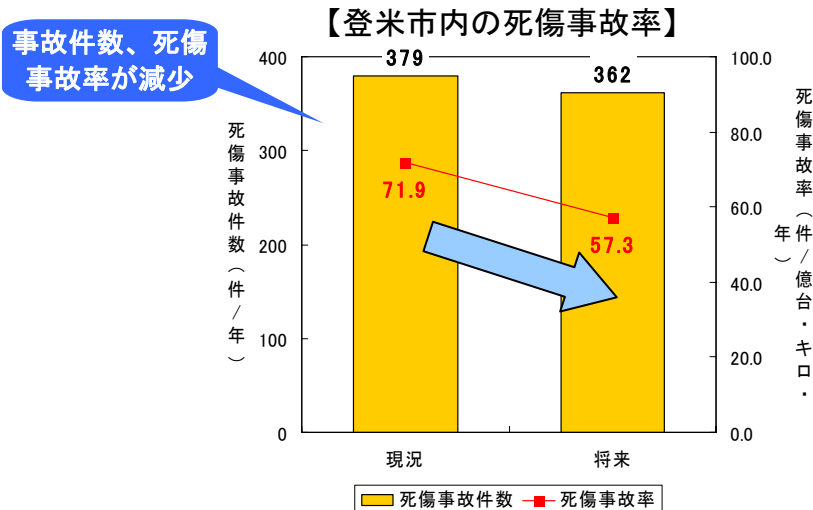
【整備後】



広幅員の歩道
や路肩が確保
され走行性が
向上します

○市内における交通事故の削減

- ・安全性の高い高規格道路が整備され、交通の一部がそれらに転換することにより、登米市内における事故件数、死傷事故率が減少します。

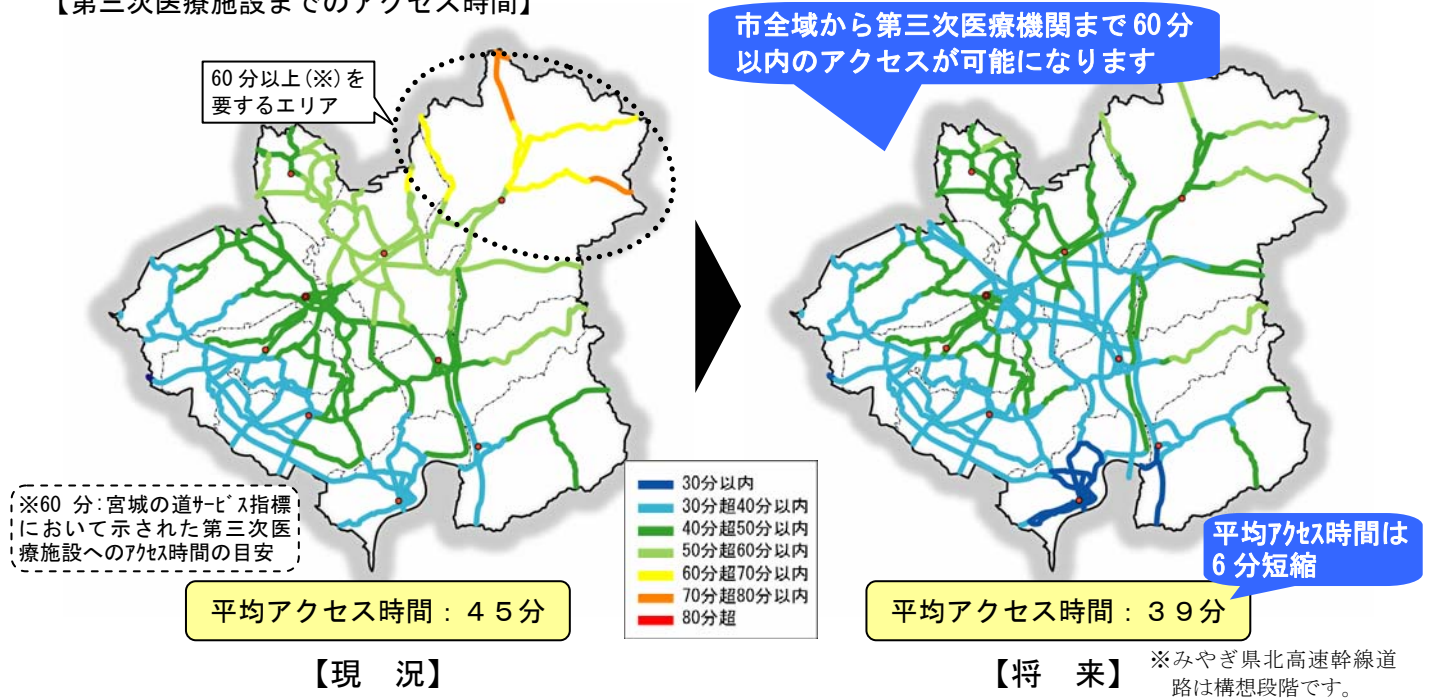


○第三次医療施設までのアクセス時間の短縮

- ・三陸縦貫自動車道の延伸やみやぎ県北高速幹線道路などの整備により、市内全域から最寄りの第三次医療施設(大崎市民病院又は石巻日赤病院※)まで 60 分以内のアクセスが可能になり、また全市的にアクセス時間が短縮されます。

※石巻日赤病院は、医療機能が第三次医療施設と同水準であると想定した。

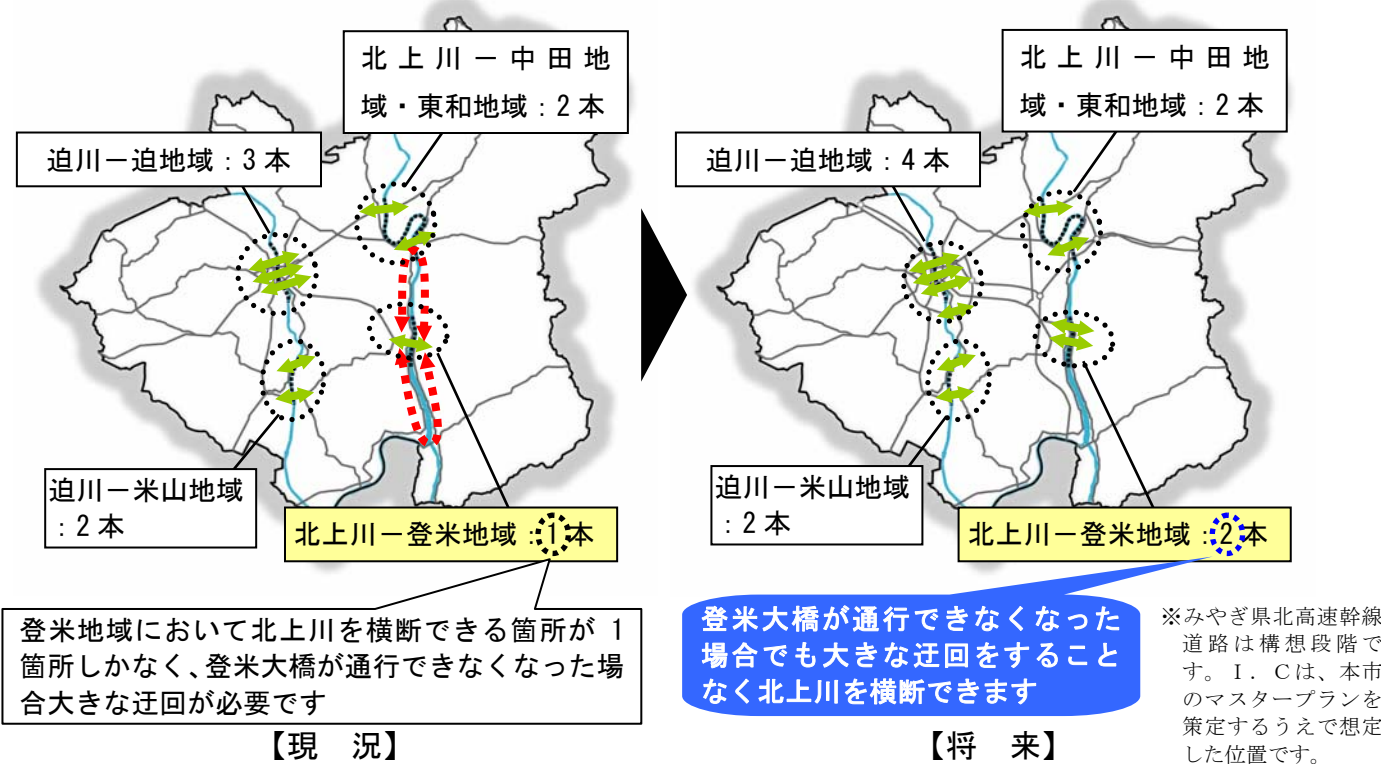
【第三次医療施設までのアクセス時間】



○北上川・迫川渡河部における道路ネットワークのリダンダンシーの確保

- ・北上川・迫川の主要な渡河部において、複数の経路が整備され、道路ネットワークのリダンダンシーが確保されます。

【北上川・迫川渡河部の道路ネットワークのリダンダンシー（主要渡河部における橋梁数※一般道のみ）】

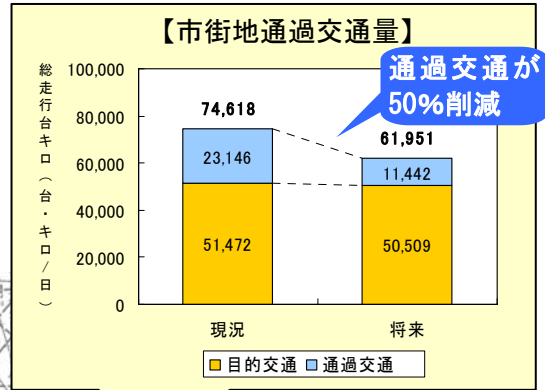
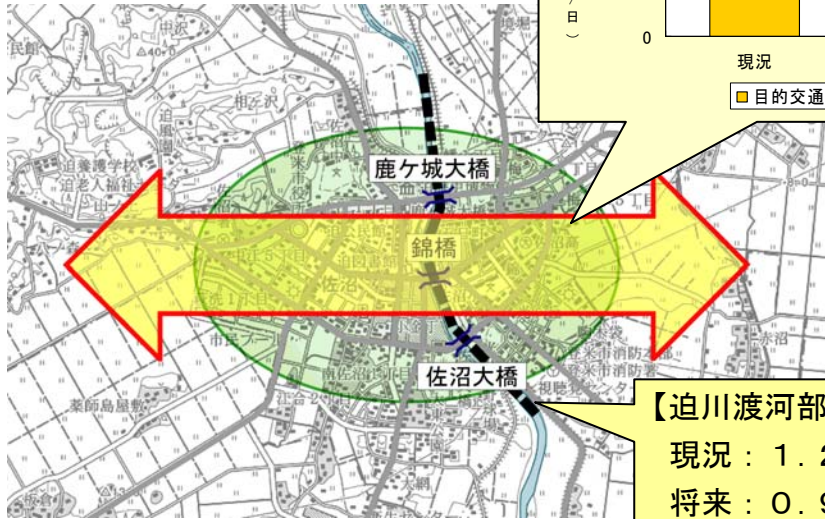


整備効果 中心市街地の交通円滑化

○市街地へ流入する通過交通削減

○迫川渡河部の混雑解消

- ・中心市街地環状道路の整備により、通過交通の中心市街地へ流入が抑制され、迫川に架かる3つの橋梁での混雑も解消されます。



【迫川渡河部の断面混雑度】

現況：1.22

将来：0.92

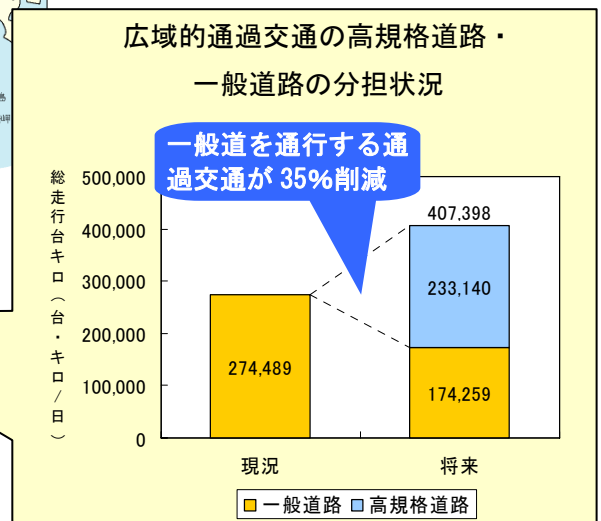
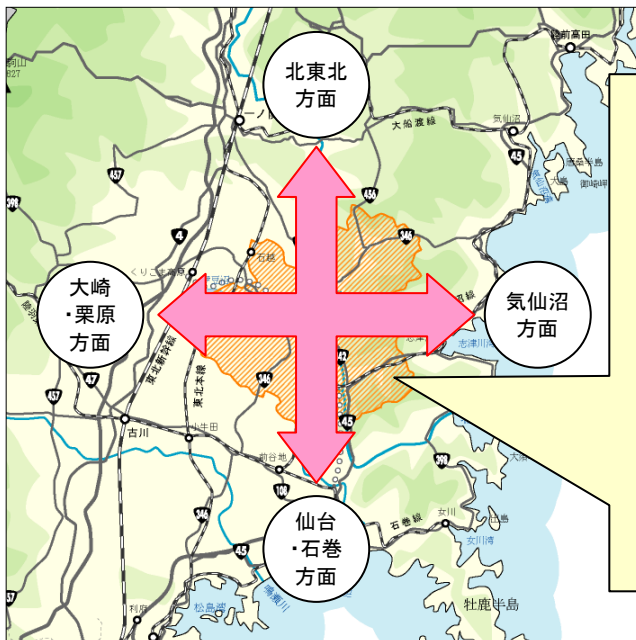
混雑解消

整備効果 広域的通過交通の円滑な処理

○広域通過交通の高規格道路分担率の向上

- ・三陸縦貫自動車道の延伸やみやぎ県北高速幹線道路などの整備により、登米市に目的のない広域的な通過交通をこれらの道路が分担し、一般道への通過交通の流入が抑制されます。

【広域通過交通の高規格道路分担率】



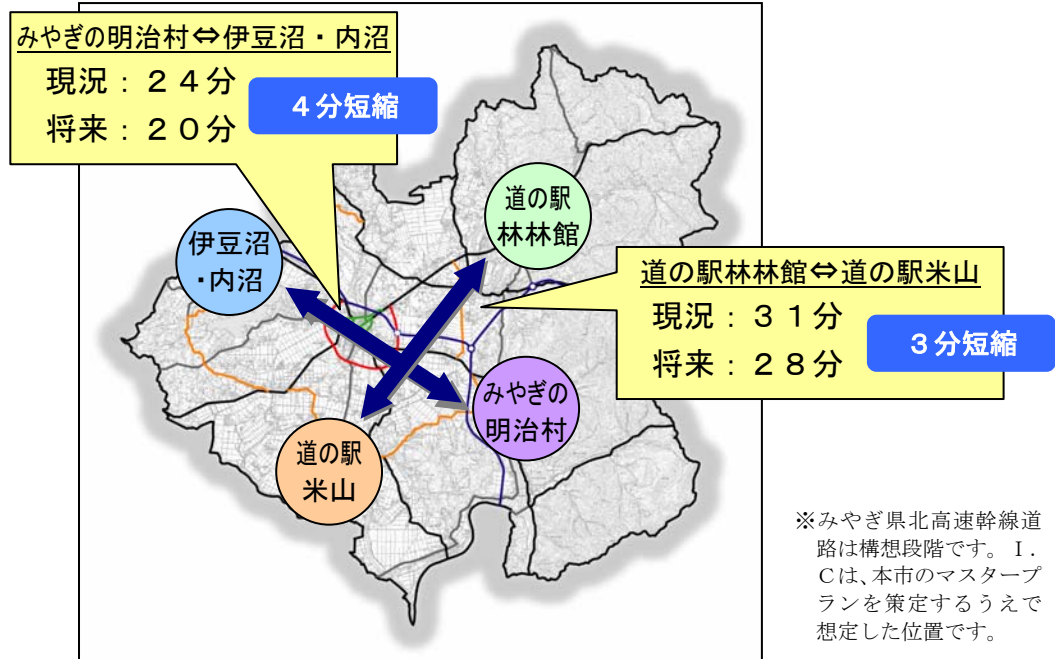
※みやぎ県北高速幹線道路は構想段階です。

整備効果 観光の振興

○市内の主要観光地点間の回遊利便性の向上

- ・県北幹線道路などの東西方向の道路が整備されることにより、市内の主要観光地間のアクセス時間が短縮され、市内における観光周遊時の回遊利便性が向上します。

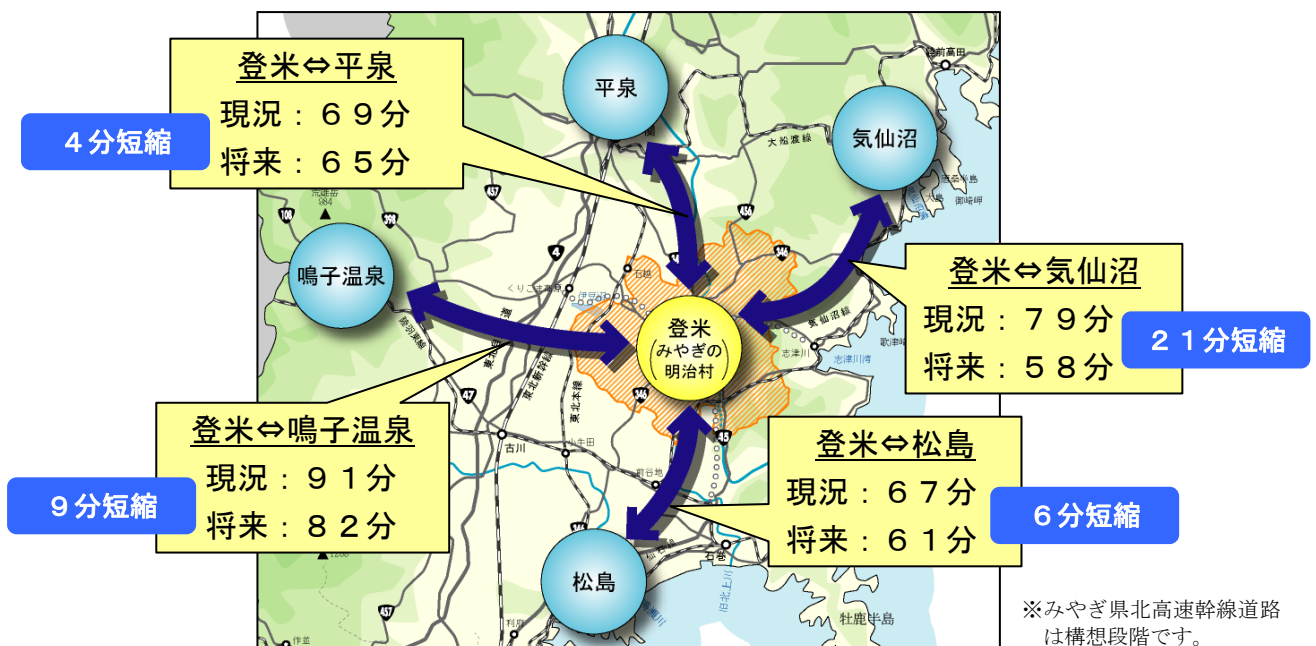
【市内の主要観光地点間のアクセス時間】



○市外観光拠点との連絡性の向上

- ・三陸縦貫自動車道などの南北方向の道路が整備されることにより、市内の主要な観光地であるみやぎの明治村と周辺の全国で有数の観光地である松島、気仙沼、鳴子温泉や平泉とのアクセス時間が短縮され、周辺都市の観光拠点との連携が促進されます。

【市外観光拠点へのアクセス時間】



■整備効果の算出方法

○整備効果は既往調査結果や交通量配分（分割+転換率併用配分）により推計した登米市の交通状況（交通量、速度、混雑度など）を用いて各指標を算出しました。

■交通量配分の推計ケース

	現況 (平成 17 年を想定)	将来 (平成 42 年を想定)
ネットワーク (道路網の状況)	H17	H17 ネットワーク+ 道路整備アクションプランの 整備箇所
OD 表 (自動車交通の需要量)	H17 (H17 道路交通センサ ス現況 OD 表)	H42 (本業務にて作成)

■各指標の算出条件

指標	算出条件	指標の分類 (注)	
		現況	将来
迫地域へのアクセス時間のアクセス時間 高規格道路 IC へのアクセス時間 平均アクセス時間	対象地点間：各地域の市役所・支所間 ルート：アクセス時間が最短となるルート 対象地点間：市内の道路から最寄りの高規格道路 IC（東北自動車道、みやぎ県北高速幹線道路、三陸縦貫自動車道の IC） ルート：アクセス時間が最短となるルート （ \sum （ゾーン毎の最寄りの高規格道路 IC までのアクセス時間×ゾーン人口）÷総人口 ※ゾーンは人口集積状況や道路網構成を考慮し市内を 26 のゾーンに分割（旧市町村を細分化）したもの）	実績値 (H17 道路交通センサ)	実績値をもとにした推計値
第三次医療施設までのアクセス時間 平均アクセス時間	対象地点間：市内の道路から最寄りの第三次医療施設（大崎市民病院又は石巻日赤病院（※）） ルート：アクセス時間が最短となるルート ※石巻日赤病院は、医療機能が第三次医療施設と同水準であると想定した。 （ \sum （ゾーン毎の最寄りの第三次医療施設までのアクセス時間×ゾーン人口）÷総人口 ※ゾーンは人口集積状況や道路網構成を考慮し市内を 26 のゾーンに分割（旧市町村を細分化）したもの）		
市内における死傷事故件数、死傷事故率	死傷事故件数は道路投資に評価に関する指針（案）に基づき算出した。 死傷事故率は下式により、算出した。 （算定式）死傷事故率＝死傷事故件数÷総走行台キロ ※総走行台キロ：市内の道路を通行する自動車交通の走行距離の総和	交通量配分による推計値	
北上川・迫川渡河部における道路ネットワークのリアンダンス	主要地域における北上川・迫川渡河部の橋梁箇所数。	※道路網構成により判断した	
中心市街地へ流入する通過交通	佐沼地区に流入する市街地通過交通量 ※市街地通過交通：佐沼地区内に目的を持たず、通過するだけの交通	交通量配分による推計値	
迫川渡河部の混雑度	佐沼地区の迫川に架かる 3 橋梁（鹿ヶ城橋、錦橋、佐沼大橋）の混雑度。 （算定式）混雑度＝3 橋梁の交通量÷3 橋梁の交通容量	実績値 (H17 道路交通センサ)	実績値をもとにした推計値
広域的通過交通の高規格道路、一般道路の分担率	広域的通過交通の高規格道路（三陸縦貫自動車道、県北高速幹線道路）の分担率 （算定式）高規格道路の分担率＝高規格道路の総走行台キロ÷全道路の総走行台キロ ※広域的通過交通：登米市内に目的を持たず、通過するだけの交通	交通量配分による推計値	
主要観光地間のアクセス時間	対象地点間：伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターからみやぎの明治村、道の駅林林館から道の駅米山 ルート：アクセス時間が最短となるルート	実績値 (H17 道路交通センサ)	実績値をもとにした推計値
市外観光拠点へのアクセス時間	対象地点間：みやぎの明治村から松島、気仙沼、鳴子温泉、平泉 ルート：アクセス時間が最短となるルート		

注) 指標の分類: ①実績値-現況について指標算出のためのデータが既往調査などにより得られるものについては、実態調査で得られたデータをもとに算出した。
 ②推計値-現況について指標算出のためのデータが既往調査などでは得られないものについては、交通量配分による推計値をもとに算出した。
 ③実績値をもとにした推計値-現況について実績値が得られるものは、実績値に現況と将来の交通量配分による推計値の変化率を乗じて算出した。

$$\text{実績値をもとにした推計値} = \text{平成 17 年実績値 (道路交通センサ)} \times \frac{\text{平成 42 年推計値 (交通量配分結果)}}{\text{平成 17 年推計値 (交通量配分結果)}}$$

4.実現化に向けた取り組み

道路整備アクションプランの推進に向け、登米市の管理する道路の整備については、鋭意事業推進を図ります。

また、国・県の管理する道路については、国・県などの関係機関との調整を図りつつ、その早期かつ着実な実現に向けた事業推進を要請するなど、登米市も積極的に取り組みを進めます。

■箇所別の市の主な取り組み

対象事業路線	事業主体	登米市の役割
三陸縦貫自動車道	国	既定の事業スケジュールの沿った事業推進を「国」に要請する
みやぎ県北高速幹線道路	県	早期の整備方針の明確化に向けて、短期・中期においては、計画検討の推進を「県」に要請します。
一般国道、主要地方道、一般県道	県	[短期の施策] 着実な事業実施を「県」に要請します。 [中期以降の施策] 平成23年度以降の早期・着実な事業化を「県」に要請します。
市道	市	道路整備アクションプランに基づき、整備を推進します。
事業主体が未定のもの	(未定)	早期の整備方針の明確化に向けて、短期・中期においては、登米市が中心となって、国・県の協力を得ながら、計画検討に着手します。